

共同研究会「撤退の農村計画」

Strategic rural reorganization study under a declining population

○林直樹* 齋藤晋** 一ノ瀬友博*** 前川英城****

Naoki HAYASHI* Susumu SAITOH** Tomohiro ICHINOSE*** Hideki MAEKAWA****

1. 共同研究会「撤退の農村計画」

平成 18 年（2006 年）5 月、林直樹、一ノ瀬友博、前川英城、齋藤晋を発起人とする共同研究会「撤退の農村計画」がスタートした。狙いは、過疎地における生活の崩壊、散発的な離村、弱者の置き去り、共同体の消滅、固有の文化などの喪失、治安の悪化（廃墟）の問題^{注 1)}を避けることであり、後述の「積極的な撤退」について、議論を進めている。ただし、集落の現状維持、現在の取り組みを否定するつもりはない。ひとつの選択肢を提示しただけである。なお詳しくは、農村計画学会誌に掲載された紹介¹⁾をお読みください。

2. 「積極的な撤退」

「積極的な撤退」とは、高齢化が著しい過疎地の住民の生活と共同体を守るため、地域の環境の持続性を高めるために、居住地、資金、土地などの管理に要する労力を戦略的に再配置（再構築）することである。おおよそ、30 年～50 年先の将来を想定しており、計画主体は、原則として市町村である。

(1)生活の崩壊を避ける

高齢化が著しい過疎地の家屋（居住地）は、比較的平坦で、鉄道駅周辺など、交通利便性がよいところに、まとまって移転させる。

もとの集落における公共サービスは、無人化後、家屋や道路などの撤去後に、原則として廃止する。これにより、財政の弱体化が緩和、地域全体の効率も改善する。これらも結局は、生活の崩壊を避けることにつながる。

(2)共同体の崩壊を避ける

共同体（意識）を守るため、まとまって移転する。また、宗教施設や無形の文化は可能な限り残す。共有林は売却しない。

散発的ではなく、まとまって移転することにより、共同体の崩壊を避ける。夢のような話かもしれないが、共同体（意識）が残っていれば、再びもとの場所に戻ることもできる。

* 総合地球環境学研究所 Research Institute for Humanity and Nature

** 大谷大学 Otani University

*** 兵庫県立大学 University of Hyogo

**** 京都大学 Kyoto University

(3)農地や水利施設の取り扱い

もとの集落（過疎地）の農地などの管理には、徹底した省力化が求められるが、工夫すれば、地域の環境の持続性を高めることも不可能ではない。この共同研究会では、移転と同時に、環境形成（管理）を根底から切り替えることも検討している。

農地（耕作放棄地も含む）や水利施設に関する選択肢は次の六つである。②～④については、選択可能なところはかなり限定される。

①水田（稲作）から、粗放的畜産などへ転換する。②いざというとき、わずかな補修で再利用できるように、公共団体が戦略的に、なおかつ、粗放的に管理する。③野外博物館化する。④生物多様性を向上させるため、湿地生息地として管理する。⑤災害防止のため、積極的に元の自然に戻す。⑥そのまま水田（稲作）を続ける。

3. 共同研究会「撤退の農村計画」の特長

メンバー（32名）の力を結集するための仕組みも準備した。そのひとつが、ネット上の情報共有・検討の場であり、いわば、大学のゼミが広域化、IT化したものである。ネット上に投稿される記事（話題）には、文献などの紹介と考察、シンポジウム参加後の報告が多く、テーマを決めて討論を行うこと、研究プランについて、意見を出しあうこともある。

無論、定期的なミーティングもある。ネット上である程度、話が進んでいるものについては、いきなり核心からはじめることができる。

4. ネット上の情報共有・検討の場の効果

すぐに感じたことは、ミーティングにおける効率、話の密度が非常に高いことである。事前に、ネット上で情報を共有しており、場合によっては、すでにコメントのやり取りで、ある程度、話が進んでいるからであろう。ミーティングは、1時間半～2時間程度と短い。

5. 研究の進捗状況

今回は、消滅危惧集落の将来予測（齋藤氏）、「積極的な撤退」の理論的背景（前川氏）、二次的自然保全の再構築（一ノ瀬氏）について、後ほど報告したい。

6. 共同研究会入会のおすすめ

この共同研究会に少しでも興味を持たれた方は、ぜひ、Webサイト（<http://tettai.jp/>）を見てください（メンバー随時募集中）。

共同研究会「撤退の農村計画」のメンバーの皆様には、多大なるご協力、アドバイスを頂いた。記して深くお礼申し上げる次第である。

【参考・引用文献】

1) 林直樹・齋藤晋・一ノ瀬友博・前川英城（2007）：共同研究会「撤退の農村計画」—人口減少時代の戦略的農村再構築—。農村計画学会誌 25 巻 4 号，564-567.

注 1)このような状況を私たちは、「積極的な撤退」に対して、「消極的な撤退」と呼んでいる。